



CHIBA
UNIVERSITY



Global & Regional Interprofessional
Education Plus Program

Global & Regional IPE+ シンポジウム 開催報告書

Global & Regional IPE+ Symposium

世界の多職種連携教育のトレンドと展望
～ユニバーサルヘルスカバレッジを目指して～

～Global Trends in Interprofessional Education-
Towards Achieving Universal Health Coverage～

Theme: The Impact of Promoting Interprofessional Service Learning on Universal Health Coverage

Date & Time: January 25th (Sat) 2025 in Japan 18:00-20:00 (JST)

[01:00～ (PST) / 10:00 ～ (GMT) / 12:00 ～ (AST, SAST) / 14:30 ～ (IST)]

Format: Live online session via Zoom

目次

1. シンポジウム概要	3
2. 開催趣旨	3
3. 登壇者	3
4. タイムテーブル	4
5. 報告・検討内容	5
1) Part 1: パネリスト報告・発表	5
2) Part 2: パネルディスカッション	6
1 司会者によるシンポジウムの概要説明	6
2. 基調解説: 酒井郁子教授	7
3. Session 1: 地域の IPE 動向の考察と統合 :	7
4. Session 2: UHC への架け橋としてのサービスラーニング	9
1) 以下の 4 つのトピックのもと、各国スピーカーが意見を述べた	9
英国におけるサービスラーニング	9
カタール 社会的決定要因と専門職連携教育	9
南アフリカ コミュニティベースの教育と南アフリカのヘルスケア	9
インド モバイルメディカルユニットとアウトリーチプログラム	10
日本 災害に関するサービスラーニング	10
指定発言 ジョン・H・V・ギルバート教授より	10
2) ディスカッション	11
5. Closing Session The Future of IPE: Implications for Education and Practice in UHC	12
6. オンライン参加者からの質問	13
7. 事後アンケート結果	14
資料	16
フライヤー 日本語版	16
フライヤー 英語版	17
当日のアジェンダ 提示用スライド	18

1. シンポジウム概要

1) タイトル：

世界の多職種連携教育のトレンドと展望 ～ユニバーサルヘルスカバレッジを目指して～

2) 開催日：

- Part 1 パネリスト報告・発表：2025 年 1 月 13 日（月）より視聴開始

- Part 2 パネルディスカッション：2025 年 1 月 25 日（土）18:00-19:40

3) 開催方式：

- Part 1：GRIP Web サイトでのオンデマンド配信（日英字幕付き）

- Part 2：ウェビナーでのリアルタイム・オンラインセッション（日英同時通訳付き）

4) 主催：千葉大学大学院看護学研究院 GRIP 推進室

5) 共催：千葉大学大学院看護学研究院国際活動委員会、附属専門職連携教育研究センター（IPERC）

日本保健医療福祉連携教育学会

6) 参加者情報： 事前登録者数 250 人、Part2 当日参加者 76 人

7) 参加費：無料

8) 参加方法：事前登録制による、主催者側からの当該 URL 通知による参加

2. 開催趣旨

本シンポジウムは、ユニバーサルヘルスカバレッジの実現を目指す IPE（専門職連携教育）の世界的な取り組みに焦点を当てた。各国・地域の社会課題に対応するサービスラーニングを含んだ IPE の重要性について、国際的な視点から議論を展開した。

3. 登壇者

1) 座長

- 酒井郁子教授（千葉大学 IPERC センター長）

2) 司会

- 辻野拓也特任助教（GRIP 推進室）

3) パネリスト

- ジョン・H・V・ギルバート教授（ブリティッシュコロンビア大学）

- エリザベス・アンダーソン教授（レスター大学専門職連携教育）

- アラ・エル-アワイシ博士（カタール大学多職種連携教育プログラム議長）

- コーリア・Y・ファン・フーレン教授（フリーステート大学健康科学部健康、リハビリテーション科学学科長）

- ロネール・ヤンセン博士（フリーステート大学看護学部）

- レリス・ダニエル助教（シンビオシス国際大学コミュニティ・アウトリーチ・プログラム）

4.タイムテーブル

18:00- 18:10 Opening

- ・ Welcome address and Agenda Overview
- ・ Opening Remarks: Professor Ikuko Sakai

18:10- 18:30 Session 1: Reflection and Integration of Regional IPE Trends

Key Topics -Growing importance and barriers of community-based interprofessional education programs

-Service learning as a practical learning opportunity for resident-centered interprofessional education

-Social implementation of interdisciplinary interprofessional collaboration for achieving UHC

18:30- 19:20 Session 2: Service Learning as a Bridge to UHC

Key Topics - Service-learning practices across regions and Community collaboration models

- Potential contributions to UHC
- Impact assessment methods (educational and UHC outcomes)
- Global expansion possibilities and significance

19:20-19:50 Closing

- ・ Recommendations for Educational Institutions and Practitioners
- ・ Final Comments from Professor Gilbert – Future Vision of Global-IPE
- ・ Closing Remarks: Professor Ikuko Sakai
- ・ Announcement

18:00- 18:10 オープニング

- ・ 開会挨拶、視聴に関するご案内
- ・ 基調解説： 酒井郁子教授

18:10- 18:30 Session 1: 地域の IPE 動向の考察と統合

- Key Topics
- ・ 地域に根ざした専門職連携教育プログラムの重要性の高まりと障壁
 - ・ 住民中心の専門職連携教育の実践的な学習機会としてのサービスラーニング
 - ・ UHC 達成に向けた学際的な専門職連携の社会実装

18:30- 19:20 Session 2: UHC への架け橋としてのサービスラーニング

- Key Topics
- ・ 地域での具体的なサービスラーニングの実践例と地域社会との協働モデル
 - ・ UHC への具体的な貢献
 - ・ 教育効果と UHC への影響の評価方法
 - ・ 世界的展開の可能性とその意義

19:20-19:50 クロージング

- ・ 各パネリストより教育機関、現場の専門職への提言
- ・ ジョン・ギルバート教授より統括

- ・ 閉会挨拶： 酒井郁子教授
- ・ アンケートのご案内

5. 報告・検討内容

1) Part 1：パネリスト報告・発表

テーマ：Global IPE trends and their respective challenges

以下より、各パネリストの動画を参照

<https://www.n.chiba-u.jp/grip/news/20250121.html>



2) Part 2：パネルディスカッション

テーマ：The Impact of Promoting Interprofessional Service Learning on Universal Health Coverage

1 司会者によるシンポジウムの概要説明

司会より、以下の内容が説明された。

参加者は Zoom の言語設定で希望する言語を選択し、マイクは常時ミュートにするよう指示されている。

- シンポジウムは日本語と英語の同時通訳付きで進行。
- テーマは UHC に向けた IPE とサービスラーニング。
- 世界各地域の実践例を共有し、議論を深める。

2. 基調解説： 酒井郁子教授

● 趣旨説明

このシンポジウムは、ユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) に向けた専門職連携教育 (IPE) とサービスラーニングの推進がテーマであり、世界各地域の実践例を共有しながら議論を深めることを目的としている。

● パート 1 の振り返りとパート 2 の構成等の説明

パート 1 では、イギリス、カタール、南アフリカ、インド、日本からの IPE の発展についてのオンデマンド動画が共有された。パート 2 はセッション 1、2、クロージングセッションの 3 つで構成され、各地域の IPE 実践の特徴と課題、サービスラーニングを通じた UHC への活用、教育機関および実践現場への具体的な提言が議論された。

以下の内容が説明された。

- パート 1 の動画は 2 月の第 1 週に再オープン予定。
- パート 2 は 3 つのセッションで構成。
- 各地域の IPE 実践の特徴と課題を共有。

3. Session 1: 地域の IPE 動向の考察と統合：

それぞれの地域での取り組みについて、特徴的な取り組み、直面している課題（具体的には社会からの理解や学生の特徴、制度や文化など、また人員や予算などロジの構築も含）、課題解決に向けた具体的な取り組み(教育プログラム実施上での工夫等)について、各スピーカーが発表を行った。

イギリスにおける IPE の現状と課題 エリザベス・アンダーソン教授

イギリスでは、政府がチームベースのケアを推進しているが、実践者の不足が課題となっている。特に不妊科のケアが重要視されており、政治的なガバナンスの中で IPE を推進する必要がある。学生のトレーニングを強化し、IPE に関する認証が必要とされている。

- 政府がチームベースのケアを推進。
- 実践者の不足が課題。
- IPE に関する認証が必要。
-

カタールにおける IPE の取り組み アラ・エル-アワイシ博士

カタールでは 2014 年から IPE をカリキュラムに組み込み、認証が大きな推進力となっている。

地域の国々も連携医療や専門職連携教育を始めており、協力が進んでいる。課題としては、従来型のカリキュラムに IPE をどう組み込むか、教員のトレーニング方法が挙げられる。

- 2014 年から IPE をカリキュラムに組み込み。
- 認証が推進力。
- 教員のトレーニング方法が課題。

南アフリカにおける IPE の取り組み ロネール・ヤンセン博士

南アフリカでは、IPE（インタープロフェッショナルエデュケーション）の取り組みが政府ではなく高等教育機関によって推進されており、学生が農村コミュニティでの活動を通じて文化的多様性を学び、支援を提供することが奨励されている。

- 南アフリカの IPE は政府ではなく高等教育機関が推進。
- 学生が農村コミュニティで活動し、文化的多様性を学ぶ。
- NHI（国の保険制度）を通じて学生のエンパワーメントとコンピテンシー向上を図る。

日本における IPE の現状 酒井郁子教授

日本では、超高齢社会と少子化が進む中で地域包括ケアシステムが急速に進展し、IPE が医療系大学のモデル・コア・カリキュラムに組み込まれている。しかし、現場ではジェンダーのバイアスや同調行動が強く、学生が自分の意見を言いにくい状況がある。

- 地域包括ケアシステムの進展により、IPE の機会が拡大。
- 医療系大学のコアカリキュラムに IPE が組み込まれる。
- 現場でのジェンダーのバイアスや同調行動が課題。

インドにおける IPE の取り組み レリス・ダニエル助教

インドのシンバイオシス国際大学では、インタープロフェッショナルエデュケーションが業界側の需要によって進展しており、学生は様々な学派に触れることで経験を得ている。現場での活動を通じて、学生はコミュニティの深い知識を学ぶ必要がある。

- 業界側の需要によって IPE が進展。
- 学生は様々な学派に触れ、経験を得る。
- 現場での活動を通じてコミュニティの知識を学ぶ。

カナダにおける IPE の課題 指定発言 ジョン・H・V・ギルバート教授

カナダでは、IPE の実践が長期にわたって行われているが、政府と大学の関係性が IPE に大きな影響を与えている。ポリシーの作成やチームベースケアの組織化には時間がかかっており、文化的な問題も存在する。

- 政府と大学の関係性が IPE に影響。
- ポリシーの作成やチームベースケアの組織化に時間がかかる。
- 文化的な問題が存在。

4. Session 2: UHC への架け橋としてのサービ斯拉ーニング

1) 以下の 4 つのトピックのもと、各国スピーカーが意見を述べた

- ・地域での具体的なサービ斯拉ーニングの実践例と地域社会との協働モデル
- ・UHC への具体的な貢献
- ・教育効果と UHC への影響の評価方法
- ・世界的展開の可能性とその意義

英国におけるサービ斯拉ーニング

英国では、サービ斯拉ーニングを通じて学生がコミュニティに貢献する機会が提供されている。特にホームレスの人々に対する医療提供など、実践ベースの学びが進められているが、倫理的問題や安全性の確保が課題となっている。

- サービ斯拉ーニングを通じて学生がコミュニティに貢献。
- ホームレスの人々に対する医療提供が進められている。
- 倫理的問題や安全性の確保が課題。

カタルーニャ 社会的決定要因と専門職連携教育

社会的決定要因を考慮し、専門職連携教育（IPE）が重要である。学生は緊急時の準備やプライマリーヘルスケアの実践を通じて、チームワークやコミュニケーションスキルを学ぶことができる。これにより、ケアの質が向上し、ユニバーサルヘルスカバレッジのアウトカムに影響を与える。

- 社会的決定要因を考慮することの重要性
- 専門職連携教育（IPE）の重要性
- 学生が緊急時の準備やプライマリーヘルスケアの実践を通じて学ぶこと
- チームワークやコミュニケーションスキルの向上

南アフリカ コミュニティベースの教育と南アフリカのヘルスケア

コミュニティベースの教育は、学生がリソースの限られた環境で実践を行うことで、実践的なスキルを身につけることを目的としている。南アフリカでは、ヘルスケアセクターの予算が増加しているが、地方のクリニックには過剰な負荷がかかっている。コミュニティサービスは、学生が地域社会に貢献する機会を提供する。

- コミュニティベースの教育の目的と方法
- 南アフリカのヘルスケアセクターの現状

- コミュニティサービスの重要性

- **南アフリカ 専門職との学び合いと評価**

専門職同士が協力し合い、デジタルストーリーを通じて学びを共有することが重要である。従来型の評価方法に加え、デジタルストーリーを用いた新しい評価方法が導入されている。

- 専門職同士の協力が重要。
- デジタルストーリーを用いた評価。
- 従来型の評価方法も継続。

インド モバイルメディカルユニットとアウトリーチプログラム

モバイルメディカルユニットは、医師、看護師、ソーシャルワーカーが協力して村々に医療を提供するプログラムである。予防医療にも焦点を当て、コミュニティのニーズに応えるためにデジタルプログラムを開始した。

- モバイルメディカルユニットの設立。
- 医師、看護師、ソーシャルワーカーの協力。
- 予防医療への焦点。
- デジタルプログラムの開始。

日本 災害に関するサービスラーニング

千葉大学の GRIP では、災害準備教育を通じて学生と住民が協力し、災害時の行動や避難について学ぶ。特に高齢者や障害者への支援を考えることで、ユニバーサルヘルスカバレッジに貢献している。

- 災害準備教育の重要性。
- 学生と住民の協力。
- 高齢者や障害者への支援。
- ユニバーサルヘルスカバレッジへの貢献。

- **日本 サービスラーニングの評価と展開**

サービスラーニングは地域の文脈に応じて展開されるべきであり、教員が社会課題の特性を理解し、適切なアプローチを提示することが求められる。速攻性がないため、長期的な視点で評価する必要がある。

- 地域の文脈に応じた展開。
- 教員の役割の重要性。
- 長期的な視点での評価。

指定発言 ジョン・H・V・ギルバート教授より

協力のスキルと文化のコンピテンシー

協力のスキルは、患者ケアの改善に寄与し、文化のコンピテンシーは国際的なサービスラーニングにおいて重要な役割を果たす。

- 協力のスキルは患者ケアの改善につながる。
- 文化のコンピテンシーは国際的なサービスラーニングで重要。
- 異なる言語や専門職の間での理解が必要。

教育とシミュレーション

コロナ禍により教育の新しい方法が模索され、シミュレーションやゲーム化が導入されている。

- コロナ禍により新しい教育方法が模索されている。
- シミュレーションやゲーム化が教育に導入されている。

連携医療と連携ケア

連携医療と連携ケアの違いを理解し、患者中心のケアを実現することが重要。

- 連携医療と連携ケアの違いを理解することが重要。
- 患者中心のケアを実現するための連携が必要。

2) ディスカッション

● サービスラーニングの教育効果

サービスラーニングの教育効果は地域の文脈に応じて評価されるべきであり、学生の学びを多様な方法で評価することが求められる。

- サービスラーニングの教育効果は地域の文脈に応じて評価される。
- 学生の学びを多様な方法で評価することが求められる。

● 学生の結果と教育の重要性

学生の結果を高く評価し、教育者として次世代のヘルスプロフェッショナルを育てることが重要である。特に、緊急事態に対応できるレジリエントなヘルスケアシステムの構築が求められている。

- 学生の結果を高く評価。
- 次世代のヘルスプロフェッショナルを育てる。
- 緊急事態に対応できるレジリエントなヘルスケアシステムの構築が必要である。

● グローバルなパンデミックと協力の重要性

コロナ後の 3, 4 年で、準備体制と協力が選択肢ではなく、対応を必要とする重大な課題であることが明らかになった。パンデミックや対立、自然災害に対応するためには、協力が求められている。

- 平時からの準備体制と協力が不可欠である。
- パンデミックや対立、自然災害に対応するために専門職間の連携と協働が必要。

● IPE とサービスラーニングの重要性

IPE とサービスラーニングは、学生が社会的な問題に対応するための道筋であり、協力のスキルを高めることができる。これらの活動は、効果が現れるまでに時間がかかるが、継続性をキープすることが重要である。

- IPE とサービスラーニングは社会的な問題に対応するための道筋を示している。

- 協力、連携と協働の個々のスキルを高める。
- 効果が現れるまでに時間がかかる。
- **グローバルな視点と健康の平等性**
健康の平等性を高めるためには、あらゆるセクターの人々と協力し、学び合うことが重要である。
ビジョンを持ち、グローバルな形での研究を進める必要がある。
- 健康の平等性を高めるために協力と学び合いが重要。
- ビジョンを持ち、グローバルな形での研究を進める。

5. Closing Session The Future of IPE: Implications for Education and Practice in UHC

未来に向かってわたしたち IPE とサービslラーニングに関わる立場からの提言のまとめとして、各スピーカーが、教育機関と実践者、政府に向けた提言あるいは IP ネットワークの構築に向けた提言等を発表した。

エリザベス・アンダーソン教授よりコメント

- 私たちの学生の結果として多くのことができることが明確である。そして、我々の学生からも GRIP を非常に高く評価をしている。

アラ・エル-アワイシ博士よりコメント

- パンデミック後の医療システムでは、平時からの準備体制と協力が不可欠になった
- レジリエントな医療システム構築には、IPE が重要な役割を果たす
- サービスラーニングは理論と実践の両方を学ぶ優れた機会である
- 学生がコミュニティでの活動経験を通じて文化的能力と帰属意識を高めることができる
- 大規模な緊急時対応（パンデミック、紛争、自然災害など）に備えた平時からの協力体制の構築が必要である

ロネール・ヤンセン博士よりコメント

- ベストプラクティスの共有が重要
- フリーステイト大学の IPE プログラムはアフリカにおける好事例である
- IPE プログラムに農業、ソーシャルワーク、心理学など他の学部も含めるべきである
- 短期学習プログラムの検討が必要
- シミュレーションや構造化されたプログラムの構築が求められる

コーリア・Y・ファン・フーレン教授よりコメント

- ベストプラクティスの共有（文献発表だけでなく専門家間のエンゲージメントも含む）
- 専門家と学生と一緒に討議できるフォーラムの必要性
- シニア学生がジュニア学生のメンターとなる制度の有効性
- デジタルストーリーの共有とフィードバックを通じた学びは効果的である

レリス・ダニエル助教よりコメント

- 急速に変化する世界（AI の進展など）に学生は対応していかなければならない

- IPE は社会問題に対応するための有効な道筋
- 学生は謙虚さを学ぶことができる（すべての知識は本だけでなく社会や人々の中にある）
- 連携協働スキルと学習スキルの向上につながる

酒井郁子教授より今後の IPE 教育、サービスラーニングに関する提言

- IPE とサービスラーニングは親和性が高く、課題も類似している
- 両者とも住民や患者家族、地域志向の活動である
- 効果が現れるまでに長い時間がかかる教育活動であり、継続性とモチベーション維持が課題
- 承認の仕組みや資源、予算の統合が重要
- 国際的な協力体制やデジタル技術（デジタルジャーニー、デジタルポートフォリオ）の活用

ジョン・H・V・ギルバート教授よりコメント（最終まとめ）

- 13 の組織が参加するグローバルな取り組みが行われている
- ビジョンが単なる「幻」にならないよう実践的な研究を進める必要性
- 10 年前と比べて状況は大きく変化し、新たな課題が生まれている
- 健康の平等性を意識し、あらゆるセクターの人々に提供していくことが重要である
- 専門職連携を通じてさまざまな問題を解決できるというビジョン
- 過重労働（例：80 時間労働）を避け、バランスのとれた取り組みの重要性

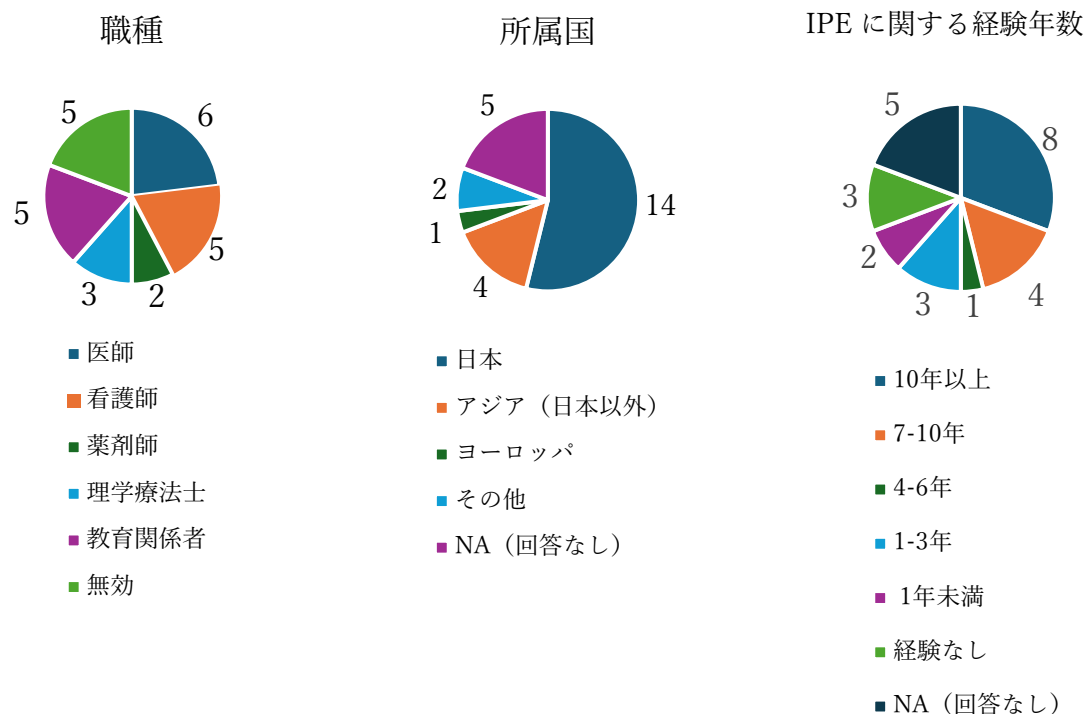
6. オンライン参加者からの質問

CAIPE に関するもの、専門職連携 (Interprofessional Collaboration) と専門職連携ケア (interprofessional Care) の違いに関するものであった。

7. 事後アンケート結果

アンケート結果報告 回答総数：26 人

a. 回答者の属性



b. 満足度(5段階評価)：平均値 4.46、標準偏差: 0.64、中央値: 5

c. シンポジウムでの主な学びについて

- ・グローバルな視点の獲得や国際協力の重要性の認識（7名）
- ・IPEの普遍的重要性、複雑な課題解決にはIPEの必要性を認識（6名）
- ・他国の専門家からの知識共有の実施（5名）
- ・日本という環境下でのIPEと国際比較、考察（4名）
- ・IPEプログラムの構築や評価方法に関する知見（3名）
- ・学習者と指導者双方にとって、地域に根ざした学習の有効性（1名）

d. シンポジウムでの学びを、今後どのように活かすかについて

- ・学生指導や大学講義などの教育への応用（7名）
- ・関連研究と実践への展開（6名）
- ・他国の経験を自国の状況に適用し、国際的な協働を推進する国際的な協力と知識の適用（5名）
- ・臨床設定での多職種連携の適用や現場職員の意識改革など臨床現場での実践（3名）
- ・多職種チームの組織や段階的な実施計画の開発など組織的な取り組み（2名）
- ・学生の社会課題への関心を専門性と結びつける教育方法の検討など社会課題への取り組み（1名）

e. シンポジウムの評価と改善点

- ・言語サポートに関して、字幕付きのオンデマンド動画の配信の要望、同時通訳に関する高い評価など（6件）
- ・時間配分について、もう少し長い時間や余裕が欲しかったという意見（3件）

- ・シンポジウムの内容や運営に対する肯定的な評価（4件）
 - ・コンテンツの改善提案として、パネリスト間の意見交換の活性化や視覚資料の追加など（3件）
 - ・複数のプラットフォーム使用などの技術的提案（1件）
 - ・プレゼンテーション時間の増加に関する提案（1件）
- f. サービスラーニングを IPE に組み込む際の課題はなにか
- ・具体的な教育実践事例や各国の特徴的なプログラムの紹介（7件）
 - ・IPE の評価方法に関する議論（4件）
 - ・学生の視点や感想の共有（2件）
 - ・ファシリテーター/指導者のトレーニング機会（2件）
 - ・カリキュラム設計と実践に関する情報（2件）
 - ・コミュニケーション戦略（1件）
 - ・非専門職の巻き込み方（1件）
 - ・国際的・異文化的なシナリオの開発（1件）
- g. 今後のシンポジウムで取り上げてほしいトピック
- ・具体的な教育実践事例（7件）
 - ・IPE の評価方法（4件）
 - ・カリキュラム設計（2件）
 - ・学生からの視点（2件）
 - ・ファシリテーター育成について（2件）
 - ・国際的・異文化的な実践例（2件）
- h. 今後の企画にたいして期待すること
- ・イベントの内容や運営に対する肯定的な評価（7件）
 - ・継続的な開催や参加者増加への期待（4件）
 - ・国際的な交流や多様な国の参加への期待（2件）
 - ・IPE の課題克服に関する情報共有への要望（1件）
 - ・外国籍労働者との協働に関する具体的な情報への要望（1件）
 - ・オンデマンド動画に関する肯定的な意見（1件）
 - ・アンケート設定に関する技術的な指摘（1件）

資料

フライヤー 日本語版



CHIBA
UNIVERSITY



Global & Regional Interprofessional
Education Plus Program



文部科学省 大学の世界展開力強化事業

Global & Regional IPE+ シンポジウム

世界の多職種連携教育のトレンドと展望

～ユニバーサルヘルスカバレッジを目指して～

Global Trends in Interprofessional Education-Towards Achieving Universal Health Coverage-

Part 1 パネリスト報告・発表

Global IPE trends and their
respective challenges

- 開催日時：2025年1月13日(月)視
聴開始予定
- 開催方法：GRIP Webサイト掲載の
動画をオンデマンド視聴
- 言語：日英字幕あり

Part 2 パネルディスカッション

The Impact of Promoting Interprofessional
Service Learning on Universal Health Coverage

- 開催日時：2025年1月25日(土)18時00
分(日本時間)開始
- 開催方法：ウェビナーでのリアルタイム・
オンラインセッション
- 言語：日英同時通訳あり

参加費無料!

パネリスト



ブリティッシュ
コロンビア大学
J.H.V.
ギルバート教授



千葉大学IPERC
センター長
酒井郁子教授



レスター大学
専門職連携教育
E. アンダーソン
教授



カタール大学
多職種連携教育
プログラム議長
A. エル-アワ
イシ博士



フリーステート大学
健康科学部健康、リ
ハビリテーション科
学学科長
C.Y. ファン・
フォーレン教授



シンビオシス国際大学
コミュニティ・アウト
リーチ・プログラム
(SCOPE)
L. ダニエル助教

IPE(専門職連携教育)が目指すことはユニバーサルヘルスカバレッジです。そのために世界の各地でIPEが推進されています。住民とともにそれぞれの専門職が、ともにお互いにお互いから学びケアの質を向上させていくために、その国やエリアの社会課題に対応するサービスラーニングを含んだIPEが必要となっています。世界のIPEとサービスラーニングについて共有し話し合うシンポジウムにぜひご参加ください。

参加申し込み方法 QRコードよりオンラインにて申し込みください。

どなたでも参加いただけます。事前に参加申し込みの上、各パネリストのオンデマンド動画を視聴いただいた上で、パネルディスカッションにご参加ください。
事前参加申し込みはこちらのグーグルフォーム(QRコード)からあるいは
▶URL:<https://forms.gle/U9XDJerBGEpuQqE86>

定員 500名(先着順)



申込用QRコード

主催：千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター(IPERC) <https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>
グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成(GRIP) <https://www.n.chiba-u.jp/grip/index.html>
共催：日本保健医療福祉連携教育学会

◆問い合わせ先：千葉大学 GRIP推進室 E-mail:grip-office@chiba-u.jp



MEXT INTER-UNIVERSITY EXCHANGE PROJECT

Free
Registration

Global & Regional IPE+ Symposium Global Trends in Interprofessional Education ～ Towards Achieving Universal Health Coverage ～

Part 1 Video Presentations by Panelists

Global IPE trends and their respective challenges

- Date and time of Video Release:
Mid-January 2025
- Participation Formats:
Available for Viewing on the GRIP, IPERC Website
Available on-demand
- Language:
Japanese and English subtitles are available

Part 2 Live Online Panel Discussion

The Impact of Promoting Interprofessional Service Learning
on Universal Health Coverage

- Date and Time of the Panel Discussion:
Saturday, January 25, 2025, 18:00 (JST) / 1:00(PST)
/ 10:00 (GMT) / 12:00 (AST, SAST) / 14:30 (IST)
- Participation Formats:
Real-time online session via webinar
- Language:
Japanese-English simultaneous interpretation available

Panelists and Facilitator



Prof. John H.V. Gilbert
Professor Emeritus
British Columbia
University



Prof. Ikuko Sakai
IPERC Director
Chiba University
[Speaker and Facilitator]



Prof. Elizabeth Anderson
Lead for Patient Safety and
Interprofessional Education
University of Leicester



Dr. Alla El-Awaisi
Director of Clinical
Operations and
Engagement & Head
of IPE Program
Qatar University



Prof. Corlia J. van Vuuren
Vice-Dean, Faculty of Health
Science
University of the Free State
Dr. Ronelle Jansen
Senior Lecturer
School of Nursing, UFS



Asst. Prof. Lelith Daniel
Symbiosis Community
Outreach Programme and
Extension Activities (SCOPE)
Symbiosis International
University

The goal of Interprofessional Education (IPE) is to achieve universal health coverage. To this end, IPE is being promoted in various regions worldwide. For residents and professionals to learn from each other and enhance the quality of care, IPE that incorporates service learning to address social issues specific to each country or area is essential.

We welcome your participation in a symposium to share and discuss IPE and service learning on a global scale.

Registration To register online, please scan the QR code below.

Everyone is welcome to participate. Please register in advance, watch the on-demand videos from each panelist, and then join the panel discussion.

To register in advance, please use the Google form QR code or the following link:
<https://forms.gle/U9XDJerBGEpuQqE86>

Capacity 500 participants (Registration on a first-come, first-served basis)

Organized by: Chiba University Graduate School of Nursing
Interprofessional Education Research Center (IPERC) <https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>
Global & Regional Interprofessional Education Plus Program (GRIP) <https://www.n.chiba-u.jp/grip/index.html>

Co-organized by: Japan Association for Interprofessional Education (JAIPE)

◆Contact: Chiba University GRIP Promotion Office Email: grip-office@chiba-u.jp



Application QR code

当日のアジェンダ 提示用スライド

Host: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program

 CHIBA UNIVERSITY  Global & Regional Interprofessional Education Plus Program

Global & Regional IPE+ Symposium

世界の多職種連携教育のトレンドと展望
～ユニバーサルヘルスカバレッジを目指して～
～Global Trends in Interprofessional Education-Towards Achieving Universal Health Coverage～

Theme: The Impact of Promoting Interprofessional Service Learning on Universal Health Coverage

Date & Time: January 25th (Sat) 2025 in Japan 18:00-20:00 (JST)
[01:00～ (PST) / 10:00 ～ (GMT) / 12:00 ～ (AST, SAST) / 14:30 ～ (IST)]

Format: Live online session via Zoom

1

Guidelines for Symposium Viewers

- Select your preferred language channel from the "Interpretation" icon in Zoom settings
- Please keep your microphone muted at all times
- Please Use the chat function for comments
- For questions, select Q&A from the menu at the bottom of the screen. Anonymous questions are allowed
- For technical issues, please message the "Host" via webinar chat

Please Note:

- Recording or audio capture of this symposium is not permitted
- Please refrain from taking screenshots

シンポジウム視聴者へのお願い

- ・Zoomの「通訳」アイコンから希望する言語チャンネルを選択してください
- ・マイクは常時ミュートをお願いします
- ・コメントはチャット機能をご利用ください
- ・質問は画面下のQ&A機能をご利用ください。匿名での質問も可能です
- ・技術的問題はウェビナーチャットで「ホスト」へ連絡ください

ご注意点:

- ・シンポジウムの録画・録音はご遠慮ください
- ・スクリーンショットの撮影もお控えください

2

Panelists and Facilitator



Prof. John H.V. Gilbert

Professor Emeritus
University of British Columbia
Representative Interprofessional Global



Prof. Ikuko Sakai

IPERC Director
Chiba University
Speaker and Facilitator



Prof. Elizabeth Anderson

Lead for Patient Safety and Interprofessional Education
University of Leicester
Joint Chair, CAIPE



Dr. Alla El-Awaisi

Director of Clinical Operations and Engagement & Head of IPE Program
Qatar University



Prof. Corlia J. van Vuuren

Vice-Dean, Faculty of Health Science
University of the Free State (UFS)



Dr. Ronelle Jansen

Senior Lecturer
School of Nursing, UFS



Asst. Prof. Lelith Daniel

Symbiosis Community Outreach Programme and Extension Activities (SCOPE)
Symbiosis International University

3

Global & Regional IPE+ Symposium

Global Trends in Interprofessional Education ~Towards Achieving Universal Health Coverage~

Part 1 Video Presentations by Panelists

Global IPE trends and their respective challenges

- Date and time of Video Release:
Mid-January 2025
- Participation Formats:
Available for Viewing on the GRIP and IPERC Websites
Available on-demand
- Language: Japanese and English subtitles available

Part 2 Live Online Panel Discussion

The Impact of Promoting Interprofessional Service Learning on Universal Health Coverage

- Date and Time of the Panel Discussion:
Saturday, January 25, 2025, 18:00 (JST)
1:00(PST)/10:00 (GMT) / 12:00 (AST, SAST) / 14:30 (IST)
- Participation Formats:
Real-time online session via webinar
- Language:
Japanese-English simultaneous interpretation available

4

Timetable

18:00- 18:10 Opening

- Welcome address and Agenda Overview
- Opening Remarks: Professor Ikuko Sakai

18:10- 18:30 Session 1: Reflection and Integration of Regional IPE Trends

- Key Topics -Growing importance and barriers of community-based interprofessional education programs
- Service learning as a practical learning opportunity for resident-centered interprofessional education
 - Social implementation of interdisciplinary interprofessional collaboration for achieving UHC

18:30- 19:20 Session 2: Service Learning as a Bridge to UHC

- Key Topics - Service-learning practices across regions and Community collaboration models
- Potential contributions to UHC
 - Impact assessment methods (educational and UHC outcomes)
 - Global expansion possibilities and significance

19:20-19:50 Closing

- Recommendations for Educational Institutions and Practitioners
- Final Comments from Professor Gilbert – Future Vision of Global-IPE
- Closing Remarks: Professor Ikuko Sakai
- Announcement

5

Timetable

18:00- 18:10 オープニング

- 開会挨拶、視聴に関するご案内
- 基調解説：酒井郁子教授

18:10- 18:30 Session 1: 地域のIPE動向の考察と統合

- Key Topics
- 地域に根ざした専門職連携教育プログラムの重要性の高まりと障壁
 - 住民中心の専門職連携教育の実践的な学習機会としてのサービスラーニング
 - UHC達成に向けた学際的な専門職連携の社会実装

18:30- 19:20 Session 2: UHCへの架け橋としてのサービスラーニング

- Key Topics
- 地域での具体的なサービスラーニングの実践例と地域社会との協働モデル
 - UHCへの具体的な貢献
 - 教育効果とUHCへの影響の評価方法
 - 世界的展開の可能性とその意義

19:20-19:50 クロージング

- 各パネリストより教育機関、現場の専門職への提言
- ジョン・ギルバート教授より統括
- 閉会挨拶：酒井郁子教授
- アンケートのご案内

6

Session 1

Theme: Reflection and Integration of Regional IPE Trends (20 min)

Key Topics

- Growing importance and barriers of community-based interprofessional education programs
- Service learning as a practical learning opportunity for resident-centered interprofessional education
- Social implementation of interdisciplinary interprofessional collaboration for achieving UHC

テーマ:地域のIPE動向の考察と統合 (20 分)

キートピックス

- 地域に根ざした専門職連携教育プログラムの重要性の高まりと障壁
- 住民中心の専門職連携教育の実践的な学習機会としてのサービスラーニング
- UHC達成に向けた学際的な専門職連携の社会実装

7

Session 2

Theme: Service Learning as a Bridge to UHC (50 mins)

Key Topics

- Practical examples of service learning in communities and collaborative models with local society
- Potential contributions to UHC
- Impact assessment methods (educational and UHC outcomes)
- Global expansion possibilities and significance

テーマ:UHCへの架け橋としてのサービスラーニング (50分)

キートピックス

- 地域での具体的なサービスラーニングの実践例と地域社会との協働モデル
- UHCへの具体的な貢献
- 教育効果とUHCへの影響の評価方法
- 世界的展開の可能性とその意義

8

Announcement

◆Thank you for attending the Global & Regional IPE+ Symposium

We hope you found the discussions on global trends in Interprofessional Education insightful and valuable.

Your feedback is crucial for improving future events.

Please take a moment to complete our short survey.

Questionnaire link and QR code: <https://forms.gle/xRDtb9BjH2kAGTou7>



We appreciate your participation and look forward to seeing you at future IPE events.
GRIP Promotion Office, Chiba University

◆Global & Regional IPE+シンポジウムにご参加いただき、ありがとうございました。

世界の多職種連携教育のトレンドと展望について、有意義な議論ができたことを願っております。
今後のイベント改善のため、簡単なアンケートにご協力ください。

アンケートリンクとQRコード: <https://forms.gle/xRDtb9BjH2kAGTou7>



本日はご参加いただき感謝申し上げます。今後のIPEイベントでまたお会いできることを楽しみにしております。
千葉大学GRIP推進室